

平成20年度4月1日訓示

平成20年4月1日

みなさん、おはようございます。

早いもので平成20年度を迎えたわけでございます。今回、小規模であります、人事異動を行ないました。事務職においては退職職員の不補充という中で、大変厳しい状況にあるわけですが、プロジェクトで示された職員数96人という目標が2年前倒しで達成できましたことに心から感謝を申し上げる次第であります。

しかしながら、今回の異動を通して、現行の職員数でのスタッフ制にも限界がきていることを痛感いたしております。

来年度の新規採用に向けた検討をしなければならないと考えておりますので、ご理解をいただきたいと存じます。

さて、永年にわたり公務員として勤務され、全国町村会自治功勞の表彰を受けられたみなさん、おめでとうございます。町発展のために尽くされたご努力に対し心から敬意と感謝を表す次第でございます。

すでに、皆さん方は課長或いは主幹ということで、本町における管理職であり、スタッフ制の中では、課長を助けながら、課をまとめるという大切な役割がございます。どうか、これからも健康に留意されまして、町の発展のために更なるご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

また、今日から、私たちの新しい仲間となられた新採用のみなさん、おめでとうございます。

心から歓迎を申し上げますとともにお祝いを申し上げます。昨今の大変厳しい経済情勢の中で、皆さんは自ら公務員の道を選ばれたわけであります。

先日終わりましたが、NHKの朝の連続テレビ小説「ちりとてちん」という番組がありました。福井県小浜市の若狭塗り箸の話や大阪の落語のお話であります。あの中で「塗り箸も落語も同じで、磨いでも磨いでも塗り重ねてきたものしか模様を表れない。また、塗り箸も落語もみんなに支えられて伝えられていくもので、技術者も落語家もその流れの中にいる。だから、皆に感謝しながら、精進して伝えていくん

だ。」というくだりがありました。

そして、もっと感動したことは「ステージでライトを浴びているだけが主役ではない。主人公にライトを照らすこと、主人公を輝かせる仕事も大事なことであり、素敵な仕事である。」ということでありました。どんなにごちそうが並んでいても、箸がなければ食べることができません。

お母さんは、自分のことではなく、家族のことで泣いたり笑ったり、毎日毎日、家族のために、お弁当を作ったりしています。一日だけの弁当ならば色とりどりのきれいな弁当をつくることができるかもしれませんが、毎日となれば、子どもの栄養や体のことを考えなければならないのです。

毎日弁当を作りつづけることは、それだけで実はすごいことなのであります。そして、このお話の主人公は、太陽のように人を照らしている自分の母の人生が、素敵であり、豊かな人生であると気づき、自分も母のようになりたいと思うのでございます。

まさしく、私たち公務員も、同じであります。

新採用であれ、ベテランであれ、職員のみなさんには「町民

みなさんの幸せのために働ける役場職員」であってほしいと願っています。 そのためには、

- ①「公務員であるということを自覚し、感謝し、努力しながら仕事に取り組む職員」であってほしいこと。 また、
- ②「それぞれの担当している業務に精通し説明責任を果たせる職員」になってほしい。 ということであります。

礼文町を元気な町にするために、職員みなさんには、その大きな原動力になっていただかなければなりませんし、もっともっとそのことを意識していただきたいのであります。

どうか、感謝の気持ちと公務員としての自覚を持って、初心を忘れずに、町民みなさんの幸せのために頑張る態勢を作ってくださいよう、お願いをいたします。

さて、いよいよ本日から平成20年度が始まりました。

日本の経済は戦後最長の景気拡大期が終わり、「踊り場」の状態になったと言われております。アメリカ経済の減速や原油価格の高騰の影響が大きいわけであります。

こうした中であって、わが町を取り巻く状況も依然厳しい

状況でございます。

みなさんもお存知と思いますが、昨年、「自治体財政健全化法」が制定されました。この法律は、夕張市の財政破綻をきっかけにして、自治体の財政悪化を早期の段階で把握し、かつ、住民監査のもと、早期の改善を図るために導入されたものでございまして、財政破綻を未然に防ぐ制度であります。

各自治体の財政状況を示す新しい指標として「実質公債費比率」が導入されました。これは、全会計の起債残高、債務負担行為、一時借入金などから、将来の負担率など各自治体の財政の健全性を分析するもので、25ポイントを超えるといろいろな制約を受け、財政健全化に取り組まなければなりませんし、35以上になりますと夕張市と同じように国の管理のもとで「財政再建団体」となるわけであります。

これまで、礼文町は長期債務が大変大きい財政状況にありました。19年度末で起債残高は一般会計で63億8千万円、特別会計で24億9千万円、合わせて88億7千万円であり、実質公債費比率は26.2であります。昨年度は26.9でありましたから、改善の方向にあるわけではありますが、これ

からも油断することなく平成20年度末には、確実に25ポイントを切る考えでございます。これからも「行政改革集中改革プラン」に則り、財政の健全化に努めてまいりますので、更なるご協力をお願いいたします。

もうひとつは、「支庁再編」の件であります。

昨年北海道から「支庁再編」の原案が示されたところでございます。現在の14の支庁が、九つの「総合振興局」と五つの「振興局」に再編される計画であります。また、「宗谷支庁」は道庁からの距離が遠く、経済圏域や離島など地域の特殊性などから「宗谷総合振興局」となる計画案が示されたところでございます。まだ決定ではありませんので安心はできませんが、宗谷地域の振興発展のため、今後も存続活動を強化しながら、原案の形で収まるよう努力したいと考えております。また、政府の道州制ビジョン懇談会も先日、中間報告で概ね10年後の2018年までに「道州制」への完全移行をすべきという提言をしました。現在の国、都道府県、市町村という体制から国、道州、基礎自治体という新しい制度に移って

いくわけでありまして、制度改正に向け、世の中は確実に動こうとしているところでありますので、職員のみなさん方もその動向に十分関心を持っていただきたいと思います。

私は、「礼文町に元気を取りもどしたい」というお話をし
てまいりました。そして、その新たな取組みとして今年度「元
気な礼文づくり事業」にチャレンジします。 みなさんから
アイデアをいただいて町の課題に取り組んでいこうという
ものでございます。それぞれ決定している内容もありますが、
これからさらに検討し実施する事業もあります。「礼文町に
元気を取りもどす」ための具体的な取組みとして町民のみな
さんも期待しているわけでございます。どうか、張りきって
いただきますよう特に、お願いを申し上げます次第であります。

終わりになりますが、新年度もまだまだ多くの課題がござ
います。

市町村合併問題も新法の期限まで2年となりましたし、温泉
開発も施設の建設年度を迎えました。後期高齢者医療制度や

特定健診が始まりますし、介護保険も計画の見直しがあり、下水道事業も船泊地区の一部供用が始まります。観光振興も今が正念場でございます。高速情報基盤の整備も進めなくてはなりません。平成20年。いろいろな意味で節目の年になるものと思います。

私は、常々、「今日の礼文町があるのは、過去において私達の先人が、町の未来に向けて行なった偉大なる努力のおかげであり、今度は、そのことに感謝しながら、私達が、次の世代のために、決断し実行する時である。」と考えています。

どうぞ、このことを心の中に置きながら、わがふるさと礼文町の元気を取り戻すため、「清く正しく美しく」をモットーに、力の限り邁進していただきたいと思っております。

職員みなさんの更なるご支援ご協力を、心からお願い申し上げます。新しい年度にあたっての訓示といたします。